

一 般 質 問

平成29年9月12日（火）

7番 堀 弘 子 議 員

1. 公園について

- ①公園内に設置されている灰皿を早急に撤去する考えを伺う。
- ②公園の遊具について
 - イ. 遊具に不具合が生じた場合の修繕、入れ替え、撤去に至るまでの流れを伺う。
 - ロ. 遊具の修繕など優先順位について伺う。
 - ハ. 使用禁止などの注意喚起の黄色いテープが巻かれている遊具がある。特に傷みのひどいものは遊具に使用禁止の張り紙がしてあり、危険度が高く早急に撤去すべきではないか。
- ニ. 地域事情を勘案すると遊具の設置が必要なのか検討する必要があると思える地域もあり、地域と協議する考えを伺う。
- ③公園に設置されている名前看板や公園使用の注意書き等の傷みが多くみられる。看板について今後、検討が必要と考えるがいかがか伺う。
- ④公園内に設置されたオブジェ等の破損状況の把握と管理について伺う。
- ⑤浜益村で設置された遊具の管理について
浜益区柏木コミュニティセンターの敷地内に遊具が設置され、「ゆうぐしよのちゅうい」の看板があり、新しいものと思われませんが、浜益村となっています。遊具はコミュニティセンターの敷地内に設置されているので、担当部署は環境市民部広聴・市民生活課になりますが、合併して10年が経過しており、このような看板が設置されているのが何故なのか伺う。
- ⑥毘砂別公園について
公園のフェンス、公園内に設置されている展望台に立ち入り禁止の注意喚起のテープが巻かれている。この様な状況はいつからなのか伺う。また、公園の近くには、観光スポットの千本ナラがあり、来春の道の駅オープンを考えると早急に対処が必要と考える。展望台の必要性等を検討し、北海道に要望すべきだがお考えを伺う。

2. 千本ナラ周辺の環境整備について

- ①昨年、倒木したナラの木は小さくカットされ、その場に積み重ねられている。観光の面からも早急な対処が必要と考えるが今後の対応について伺う。
- ②8月29日、現地を訪ねたが通り過ぎてしまった。周辺の樹木が生い茂っていたことが原因と考えるが、現状の管理と今後の管理についてのお考えを伺う。

3. 自治基本条例について

- ①自治基本条例懇話会に、見直しまでのスケジュールが資料として提出され、今年中にワークショップ、パブリックコメントを行い2018年の第1回定例会に提案するとしているが、これは担当部署としてのスケジュール案であり、案の通りにこなしていくものではないことを確認の意味で伺う。
- ②自治基本条例は自治体の憲法と言われている。条例の見直しには、施行されてからの評価をす

べきだがお考えを伺う。

- ③条例では5年を超えない期間に見直しの検討を行うとしているが、検討開始が遅れたことは否めない。見直しの検討を開始したのが5年目で結論が6年目になっても良いと考えるがいかがか伺う。
- ④懇話会での検討が生かされることが必要であり、開催する講演会、ワークショップについてもゼロから懇話会で検討されるべきと考えるがいかがか伺う。

4. フッ化物応用の危険性について

- ①フッ素濃度が1000ppmから1500ppmになった歯磨き剤の注意喚起の実施について伺う。
- ②他自治体の事例ではあるが、当市において集団フッ化物洗口を推進する為に対象施設に実施を強制する様なことはないか伺う。

14番 村上 求 議員

1. 防災について

- ①現在避難訓練や防災訓練などは、主に自然災害を想定したものであるが、国連の決議を無視し、核実験及び弾道ミサイル実験など、第2次朝鮮戦争を彷彿させるほど緊迫した状況下です。そこで、まだ一度もミサイルを想定した訓練などは実施していないことから、早急に訓練を行うべきと思うが考えを伺います。
- ②先日事前予告なしに、初めて日本上空を弾道ミサイルが通過しました。本市にはJアラートがあり厚田・浜益・旧石狩（一部）はミサイル発射後4分程度で知る事ができました。携帯電話を持たない花川北・南地区の方数名からミサイルの事を知らず、着弾後2～3時間後に知ったと言われました。そこで、外部スピーカーをせめて消防署くらいには設置したほうが良いのではないか伺います。

2. グローバルGAPについて

- ①グローバルGAPについて、本市の認証取得状況について伺います。また、農水省の担当者からお話を聞いた際には、もっと自治体に積極的に取り組んで貰いたいとの事であったが、本市のグローバルGAPに対する考え方も合わせて伺います。
- ②畜産においては海外輸出する場合、グローバルGAP認証は当然のようにになっているとのことである。本市は、海産物はすでに海外輸出を多くしている。しかし、農作物や畜産物などは海外輸出はあまり耳にしません。経済規模が縮小する日本において、海外にも販路拡大する事が必要だと考えますが、お考えを伺います。

3. ガバメントクラウドファンディングについて

- ①夕張市が市内唯一の夕張高校を継続維持のため、ふるさとチョイスを活用し寄附を募った。結果としてはまだ継続しているが、現在目標金額の1.8倍の1ヶ月で1200万円、あと約4ヶ月あるのでまだまだ増える予定であるが、本市においてこのようなCF（クラウドファンデ

ィング)は有効活用したほうが良いと思いますが、お考えを伺います。

4. 外来生物について

- ①日本列島にもいよいよ招かざる生物である『ヒアリ』が至る所で発見されている。環境省と国交省では全国68港湾において調査を開始した。道内6港湾においては、8月8日より随時開始しており、2回目は9月上旬、3回目は10月中旬と聞いているが、本市の水際対策として何を行っているのかを伺います。

5. 学校給食甲子園について

- ①今年で12回目を迎える学校給食の全国大会です。前回は北海道の足寄町が優勝しました。この甲子園は、学校給食で提供されている献立内容や、地場産物の活かし方を競いながら食育を啓発することが目的であり、地域活性化のきっかけに繋がればということのようです。新しい給食センターも出来て、本市の素晴らしい給食設備もさることながら、豊富な食材の種類を誇る石狩を知ってもらう良い機会だと思いますが、参加するお考えがないかを伺います。

6. 樽川農園の獣害被害について

- ①市民農園として営業しているため、市としてシカによる獣害の対策は貸し出している業者が対応すべきというの、重々承知しております。ただし猟銃で駆除するわけにもいかないですし、ほぼ民家の近くとなっており、神社には近所の子供たちも行くことになり害獣と鉢合わせすることなども考えられます。子供たちが危険にさらされてしまう形となりますが、市として何らかの形で対応はできないのか伺います。

7. 障がい者の雇用関連について

- ①現在市役所内で、障がいをお持ちの方の雇用状況を伺います。また、手話条例を市町村でいち早く制定し、体の不自由な方にやさしいまちづくりを進めているわがまちは、他市に先んじて国の決めた雇用比率より高めて、石狩らしさを前面に自立支援に力を入れてはいかがでしょうか。お考えを伺います。

5 番 三 崎 伸 子 議 員

1. 核兵器廃絶条約国連採択について

- ①国連の核兵器禁止条約交渉国連会議に日本は不参加であった。田上長崎市長の平和宣言は大きな反響を国民に与えている。非核の世界実現へ向けて地方からの発信について伺う。
- ②北朝鮮の核実験とミサイル発射は、市民の大きな不安となっている。平和的外交の解決が必要であり、市長の見解を伺う。
- ③被爆者が行っている署名に市としても支援する考えを伺う。

2. 子供・子育て支援について

- ①子供医療費の小学生までの拡充について重ねて求める。
- ②子育て支援の一環として、すべての子供たちが等しく学ぶことができる一つの施策として給食費無償化を検討する考えはないか伺う。
- ③若い世代や子育て家庭への実態把握と、市内全体でこれまでの取り組み状況と課題について伺う。

3. 石狩空襲について

- ①望来・厚田・石狩の空襲を学校の授業の中で詳しく教える考えを伺う。

4 番 蜂 谷 三 雄 議 員

1. 新市12年後の現状と課題

この10月で新市12年の節目を迎える。合併特例債や過疎債の延長期限もあと3年である。向こう3年という時間は行政事務の流れからして極めて重要な期間となる。当時、関係自治体の住民は歴史的な決断を行ったのであり、そこに至るまでに特に編入される厚田および浜益の住民はある意味苦渋の決断だったと言える。その背中を押したのが「あいの風おこし・石狩の国づくり（具体的事業を盛り込んだ新市建設計画）」であったことは間違いない。そこで、当時当該計画に基づくまちづくりとして描いた姿と現状及び到達・課題について示されたい。また、特に今後の浜益区の課題について伺う。

2. ふくしの里高齢者福祉施設の増設について

浜益区の人口減少と高齢化はこの12年間で約1000人の減少となり、今年度当初の高齢化率は55%を越える領域に達している。生産年齢人口は3区域最低の39%である。二つの数字からもこの地域に特養ホームとグループホームの増設が必要不可欠で、地域の活力維持にも直結する問題である。そこで、この施設がこれまで地域で果たしてきた多様な役割をどう評価しているか。2025年問題は騒ぎすぎの感もあるが、間違いなく自治体の差し迫った課題である。「地域包括ケアシステム」ではカバーできない施設福祉のインフラは欠かせない。札幌広域圏連携なども視野に入れつつ、地域福祉と生産年齢人口増加をはかる観点からも、これまで棚上げとなってきたことを踏まえ、次期介護保険事業計画に盛り込むよう求めたい。

3. 石狩湾内の風力発電事業計画について

現在、石狩湾内に4事業所合計46基の大型風力発電建設計画が進行していて一部の事業者の工事も着手されている。環境省で採択された「風力等に係るゾーニング導入モデル事業」が行われるが、既存の計画を含めなければ累積的影響は空文化してしまう。一度立ち止まってこの事業の対象とすべき。